

## 奈良の大仏様 ~ 会うたびに大きくなる不思議な仏様 ~

「奈良」といえば、ほとんどの人が「東大寺の大仏」が頭に浮かぶことと思います。

「大仏様」と一般的によばれている、奈良東大寺の大仏は、正式には、「盧舎那仏像(るしゃなぶつぞう)」といいます。聖武天皇の発願で745年(天平17年)に制作が開始され、開眼供養会(かいげんくようえ)が行われたのは752年(天平勝宝4年)。現在の大仏様は、平安時代末と戦国時代の2度にわたり兵火によって大仏殿とともに焼亡しましたが、そのたびに復興しました。像高約15mで現存する金銅仏としては世界一の大きさです。

全国の多くの人が、修学旅行で奈良を訪れ、大仏様と出会い、その大きさに驚かれます。大仏様の大きさに驚かれるのは、修学旅行生だけではなく、大人になって、初めて大仏様と出会った人も、外国からはるばる奈良へお越し頂いた方も、大仏様の大きさには驚かれます。像高15mというと、ビルでたとえると7階くらいに相当するのでしょうか。仏像といえば、概ね人間と同じ大きさというイメージがありますから驚かれるのも仕方ありません。2度3度と大仏様と出会われても、最初に来られたときと同じように大仏様の大きさには驚かれます。

子供の頃、「すごく大きい。」とか「すごく広い。」と感じていた物が、大人になってみると、同じものでも「意外と小さい。」と感じた経験をお持ちの方は世の中にたくさんいらっしゃると思います。自分自身の体が大きくなり、また、世の中でたくさんの大きなものを見てきて、あらためて子供の頃みたものを小さく感じるのは、人間にとってごく普通のことです。

ところが、奈良の大仏様は、少し違います。

学生時代、大きいと感じた大仏様を大人になって再び訪れたからといって、「小さくなった。」と感じる人はまずいないでしょう。逆に、「(学生時代感じた以上に)大きい。」と感じる人が世の中にはたくさんいらっしゃるかも知れません。

大仏様は、この世のすべてのものに大きな慈愛を注ぐ、思いやりの心を象徴化したものであるといわれています。

人間は、生きていく中で様々な過ちを犯し、様々な苦悩をもって生きています。大仏様は、そんな心をすべて見過ごし、吸収してくださる不思議な力をお持ちのようです。その不思議な力を感じたとき、大仏様が大きく感じられるのでしょうか。

年を重ねるほど、大きかったものが小さく感じるのとは逆に、年を重ね、人生経験を踏めば踏むほど大きく感じるのが「大仏様」なのです。私は、生まれも育ちも奈良ですが、大仏様を拝むたびに、大仏様のオーラを感じ、その姿を見ている間は、時間の経つことすら忘れることができます。

そしてもう一つは大仏様の手の魅力です。仏像には様々な手の形がありますが、大仏様の場合、左手の形を与願印(よがんいん)といいます。これは、人々の願いを聞き入れて、望むものを与えてくれるという意味だそうです。そして右手は、施無畏印(せむいいん)といい、人々の緊張を和らげ安心させるという意味があるようです。私は、いつもこの右手に目がいきます。右手は、手を前に立て掌を前に向けておられます。そして中指を少し、前に曲げられています。いろんな悩みを抱え、大仏様を拝み、しばらく時間が経った後、ふと我に返ってその中指を見ると、「がんばって前に進みなさい。」と言って、や

さしく肩を押していただいているように感じるのが、ちょっと曲がった中指です。

明日への生きる希望と勇気を授かる、そんな不思議な力をもっているのが奈良の大仏様です。

(奈良県葛城市 葛本 雅則)